

教育課程特例校に係る学校教育活動評価アンケートについて

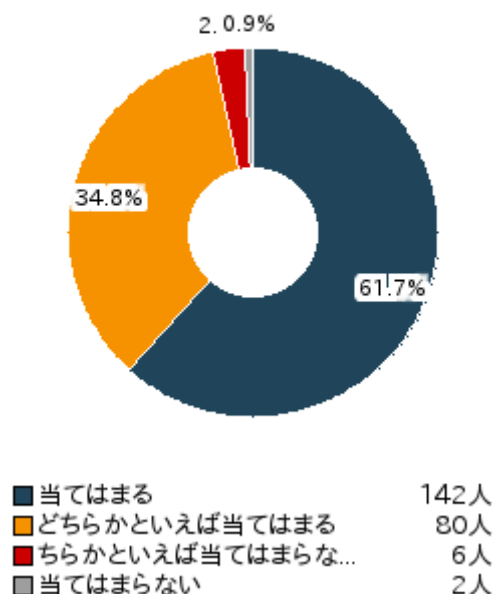
陽春の候、保護者の皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか。日頃より、本校の教育活動に皆様のご理解、ご協力を賜っておりますことに感謝申し上げます。

さて、2021年度の標記アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。アンケート結果からは、保護者の皆様が本校の教育に大きな期待を寄せてくださっていると同時に、さらなる教育効果向上のための工夫が必要であるとの願いをお持ちであることが伝わってまいります。今後も、本校の特色を生かしつつ、全体の、そして個に応じた指導の充実を図り、「確かな学力の保障と人間成長の保障 両全の教育」により一層力を注いでいきたいと考えております。また、教育課程特例校ならではの学びやその効果について、おたよりやホームページ、学校LINEを通して発信し、皆様に情報をお届けできるよう努めてまいります。

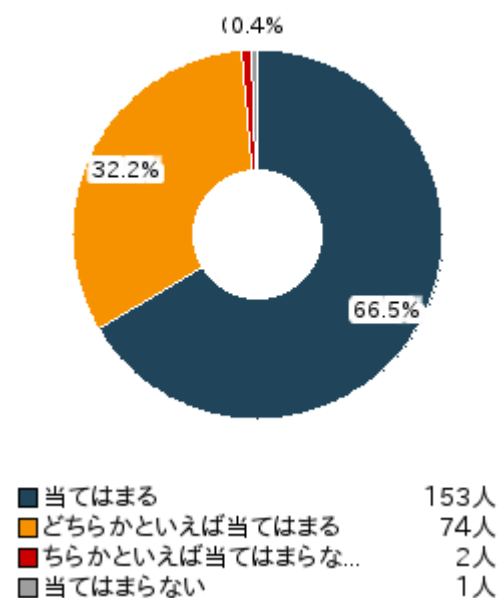
今後ともご理解、ご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2021年度 教育課程特例校に係る学校教育活動評価アンケート結果

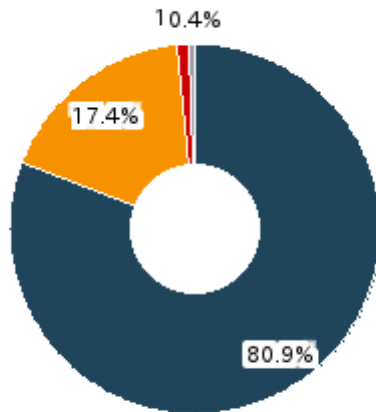
問1 本校が実施している独自の教育課程の内容と取組について知っている。



問2 本校の教育課程の意義・重要性を感じている。

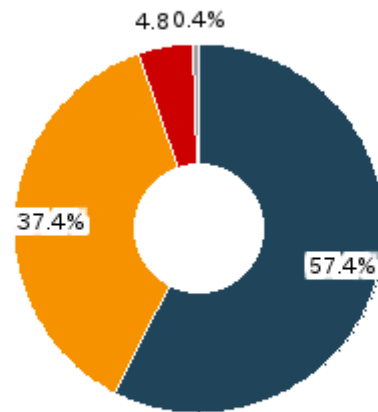


問3 本校の教育課程による子どもたちの学びや成長に期待している。



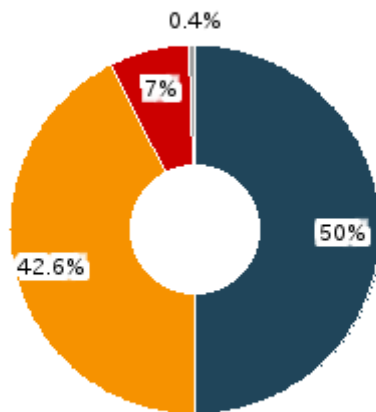
■ 当てはまる	186人
■ どちらかといえば当てはまる	40人
■ ちらかといえは当てはまらな...	3人
■ 当てはまらない	1人

問4 今後も本校の教育課程にさらに工夫や発展が重要であると考えている。



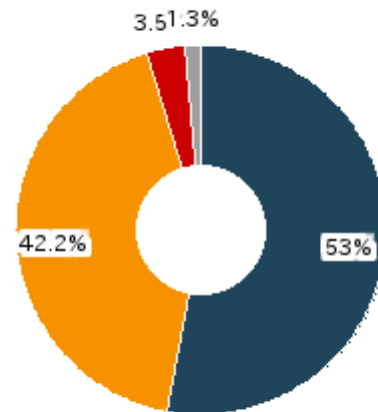
■ 当てはまる	132人
■ どちらかといえば当てはまる	86人
■ ちらかといえは当てはまらな...	11人
■ 当てはまらない	1人

問5 学校はおたよりやホームページなど、機会を見つけて教育課程の学びやその効果について発信している。



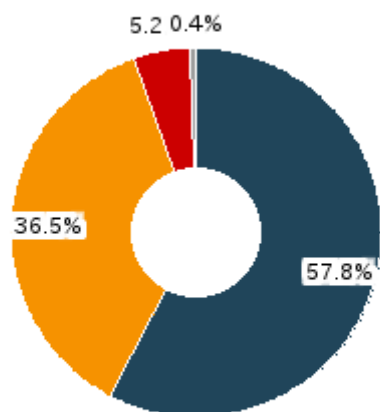
■ 当てはまる	115人
■ どちらかといえば当てはまる	98人
■ ちらかといえは当てはまらな...	16人
■ 当てはまらない	1人

問6 学校は、教育効果が十分高まるよう環境や設備面などへの配慮をしている。



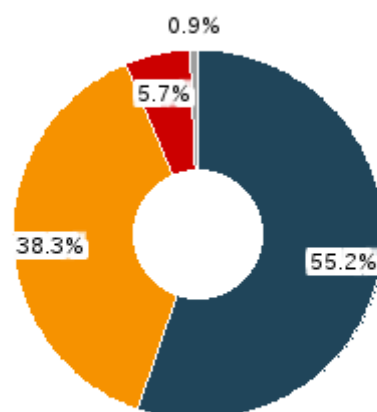
■ 当てはまる	122人
■ どちらかといえば当てはまる	97人
■ ちらかといえは当てはまらな...	8人
■ 当てはまらない	3人

問7 学校や教員は、独自の教材開発や工夫した授業展開など努力している。



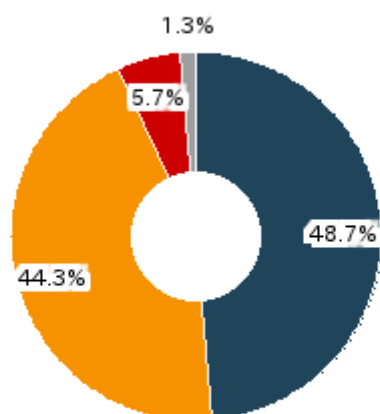
■ 当てはまる	133人
■ どちらかといえば当てはまる	84人
■ ちらかといえは当てはまらな...	12人
■ 当てはまらない	1人

問8 子どもたちは本校の教育課程での学びに意欲を持って取り組んでいる。



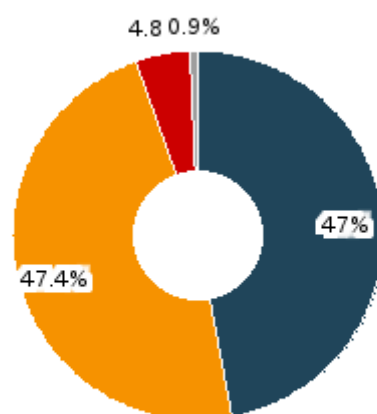
■ 当てはまる	127人
■ どちらかといえば当てはまる	88人
■ ちらかといえは当てはまらな...	13人
■ 当てはまらない	2人

問9 子どもたちは本校の教育課程により「確かな学力」を育てている。



■ 当てはまる	112人
■ どちらかといえば当てはまる	102人
■ ちらかといえは当てはまらな...	13人
■ 当てはまらない	3人

問10 子どもたちは本校の教育課程により「人間的な成長」を見せている。



■ 当てはまる	108人
■ どちらかといえば当てはまる	109人
■ ちらかといえは当てはまらな...	11人
■ 当てはまらない	2人

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について

爽秋の候、保護者の皆様には、日頃より本学院の教育活動に対しましてご理解ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、今年度4月に行われました全国学力・学習状況調査の結果について、資料が整いましたのでお知らせいたします。この調査結果において本校のS6年、T9年ともに、全体的に全国平均より10ポイント以上高い正答率を収めております。この調査の詳細な分析結果から、全学年、小中一貫教育によるさらなる学力の向上をめざし、課題改善の方策を打ち出して指導実践に入っております。ここに、両学年の調査の結果、概要、設問分析、課題改善の方策をお伝えいたしますのでご覧ください。

また、今後も引き続き、確かな高い学力の育成のための指導を行ってまいりますので、ご理解ご協力のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

【小学校 国語】

*正答率(%) 以下同様

分類		区分	本校	仙台市	全国
		全体	75	65	65.8
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	80.6	68.7	69.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	—	—	—
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	80.6	80.3	78.0
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	72.6	64.8	66.3
		B 書くこと	58.1	47.9	48.6
		C 読むこと	75.8	66.3	66.8
評価の観点		知識・技能	80.6	70.7	70.7
		思考・判断・表現	70.6	61.3	62.1
		主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式		選択式	79.4	71.6	71.9
		短答式	80.6	63.5	63.8
		記述式	57.0	50.6	51.4

1. 概要

本校の正答率は75%、全国は65.8%であり、良好な結果だった。また、問題14問を11問以上(8割程度以上)正解した児童が64.5%であった。さらに、学習指導要領の内容別正答率、問題形式別正答率で全国平均を上回っている。

2. 設問分析(特徴的な問題について)

②設問2 「物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】のAに入る内容を書く」

出題の趣旨：人物像や物語の全体像を具体的に想像する

※平均正答率 全国：68.5% 本校：80.6% (無解答率9.7%)

・これは、登場人物の相互関係や人物像から物語全体を具体的に想像し、物語から伝わってくることをまとめる問いであった。言語技術や国語の授業で、くわしく人物を分析し、人物たちがどのように物語に関わっているのか指導している成果であると考えられる。一方で、無解答率が高い問題であった。どのように文章にしたらよいか分からなかったと考えられる。自分の考えを自信を持って文章に

書けるように指導者がアプローチしていくことが必要である。

③設問1 「【文章2】の□の部分、どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する」

出題の趣旨：文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える

※平均正答率 全国：59.4% 本校：80.6%

・これは、文章全体の構成に着目して文章を整え、自分の考えを最初に書いていることを捉えることが求められる問いであった。自分の意見を明確に伝えるには、最初に自分の主張を述べることが大切であることは身につけている。

③設問2 「【伝え合いの様子の一部】を基に、【文章2】のよさを書く」

出題の趣旨：文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける

※平均正答率 全国：37.9% 本校：35.5%

・これは、①【文章2】のよさを書く、②【文章2】から言葉や文を取り上げて書く、③60字以上、100字以内にまとめて書く、という3つの条件に合わせて文章を書く問いであった。誤答のほとんどが②の条件を満たしていないというものだった。「条件に合わせる」ということは基本的なことである。よく設問を読み、何が求められているのか考えながら問題を解くことに慣れさせていく。

3. 指導改善の方策

今回の問題について、記述式の正答率が全国平均よりは高かったものの、記述力には課題が残った。記述式の無解答も目立った。国語・言語技術の授業において、「書くこと」の指導は重点的に行っていたつもりだが、「自分の力だけで書く」ことは身につけていないということが分かった。授業で書き方を学び、その通りに書く力は育ってきていると感じているので、今後は学習したことを生かして自分の力だけで文章を書く練習が必要である。

【小学校 算数】

分類	区分	本校	仙台市	全国
	全体	77	62	63.3
学習指導要領の領域	A 数と計算	81.2	67.8	69.9
	B 図形	75.8	64.6	64.2
	C 測定	—	—	—
	C 変化と関係	71.0	50.7	51.5
	D データの活用	80.6	66.4	68.8
評価の観点	知識・技能	82.4	67.9	68.3
	思考・判断・表現	69.1	54.8	56.9
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式	選択式	63.4	50.8	52.0
	短答式	90.9	77.0	76.6
	記述式	75.0	56.9	60.3

1. 概要

本校の正答率は77%、全国は63.3%であり、10ポイント以上上回る結果だった。問題16問中13問

以上正解した児童が 51.7%(全国 30.5%), 16 問全問正解も 12.9%(全国 2.6%)と、最上位層において全国に差をつけることとなった。また、全設問の正答率で全国平均を上回っている。

2. 設問分析(特徴的な問題について)

- ・記述式の設問は、1(3)【正答率：本校 80.6% 全国 76.1%】、2(4)【正答率：本校 61.3% 全国 48.3%】、3(4)【正答率：本校 87.1% 全国 67.9%】、4(1)【正答率：本校 71.0% 全国 49.1%】の 4 問で、正答率は 75.0% (全国 60.3%) であった。それぞれ 2 つ以上の条件を踏まえて根拠を記述しなければならない問題であった。3(4)1 年生の希望をかなえるためのポイント数の求め方と答えを書く問題では、3 つの条件が必要となるが全て記述できていた児童が 90.3%、1 つの条件でも書けていた児童も含めると 96.8%が記述できていた。また、2(4)果汁が 30%含まれている飲み物に果汁が 180mL 入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く問題では、1 つの条件でも書けていた児童は 87.1%に上っており、正答に至らなくても条件を記述することができていることが分かる。
- ・選択式の設問の正答率が本校 63.4% (全国 52.0%) で、短答式【本校 90.9% 全国 76.6%】、記述式に比べ低い。本校でも、1(4)85×21 の答えが 1470 より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選択する問題【正答率：本校 41.9% 全国 34.9%】と、2(3)果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選択する問題【正答率：本校 48.4% 全国 21.6%】の 2 問が正答率 50%を切っている。全国に比べれば正答率の高いものの、思考を深めることを苦手としていることと、既習事項の特性についての理解不足が見受けられる。

3. 指導改善の方策

- ・記述式の設問については、問題文から条件を読み取り適切に記述する力が養われてきていることが分かる。普段の授業の中で課題の出し方を工夫し、記述する機会をつくと共に思考の機会を増やし、更に力を伸ばしていきたい。
- ・普段の授業の中で、単発で答えられる問題についても、既習事項について触れながら思考させる機会を増やし、理解を深めさせていきたい。

【小学校 理科】

分類		区分	本校	仙台市	全国
		全 体	76	63	63.4
学習指導要領の 区分・領域	A 区分	「エネルギー」を柱とする領域	58.1	51.2	51.7
		「粒子」を柱とする領域	79.4	61.3	60.5
	B 区分	「生命」を柱とする領域	81.3	75.4	75.1
		「地球」を柱とする領域	80.6	64.4	64.8
評価の観点		知識・技能	73.7	63.7	62.6
		思考・判断・表現	76.5	63.4	63.8
		主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式		選択式	79.2	66.9	66.9
		短答式	81.7	67.5	66.4
		記述式	55.9	46.9	47.5

1. 概要

本校の正答率は76%、全国は63.4%であり、全国を10ポイント以上上回る概ね良好な結果である。問題17問中13問以上正解した児童が61.2%(全国39.8%)と上位層が多く、ほとんどの問題で全国平均を大きく上回った。全国平均をわずかに下回った2問については、3年生の学習内容で学習から時間が経過したこと、課題に対し、複数の情報を精査・まとめ直しその内容を記述するという慣れない解答形式であったことが全国平均を下回った要因であると推察される。繰り返しの学習と問題演習における記述問題の解答の精度を高めるなどしてベースアップを図る必要がある。

2. 設問分析(特徴的な問題について)

② (1) 一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く
→模範解答は「メスシリンダー」で、本校の正答率は90.3%であった。全国の誤答として挙げられる「ビーカー」「計量カップ」「試験管」「フラスコ」と解答している児童はそれぞれ0%であった。また、② (2) の問題は、水50 mLをはかり取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ問題だが、これについても正答率は93.5%と全国70.2%に大きく差をつけた。理科の課題として度々挙げられる実験器具の正しい使い方という知識・技能を問う問題について、本校は授業内で適宜実験を実施し、実験器具についても十分に名称、使い方を習得しているといえる。

③ (1) 光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ
→「日光は直進することを理解している」という非常にシンプルな3年生の学習内容ではあるが、教科書に記載されている実験を若干アレンジした出題となっており、授業内でやったことがない実験に児童は戸惑ったことが予想される。全国平均も27.9%と高くないが、本校は25.8%と全国平均を下回った。既習の知識・技能を未知の場面に当てはめて問題を考えることに課題が残る。また、② (4) の問題は、問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く問題だが、複数の実験結果から色や温度、時間経過などの複数の要因を必要な事項のみ抽出して書かなければならず、正確に書きとれた児童は41.9%であった(全国35.3%)。

3. 指導改善の方策

全体的に一問一答のような選択式・短答式の正答率は高かったが、複数の既習事項を組み合わせで考えたり、複数の要因に触れながら記述したりしなければならない問題について課題が残る。また、長い文章や複数の実験結果を読み取り、未知の課題について思考する問題についても課題がある。実験・観察から規則やきまりを見出す問題演習を繰り返し行い、学習から時間の経過した過去の学習内容についても折に触れて問題演習を行っていく。

【小学校 児童質問紙調査】

1. 概要

本校6年生の質問紙調査から見えてくる特徴は、自己肯定感、挑戦心の項目について、全国を下回っており、自分自身のよさを受け容れられなかったり、難しいことにも自信を持って挑戦することを苦手としていたりする児童が多く見られる。学習面については、計画を立てて勉強する姿勢や、学習時間、読書時間が全国よりも上回り、学習に対する意欲が見られる。

2. 設問分析(特徴的な設問について)

- ・「自分には、良いところがあると思う」という設問に対して、「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童が29%いる。「先生は、あなたのよいところを認めてくれている（設問8）」と思いながらも、自分の良さを認められない児童が多くいることがわかる。この点については、普段から、自己肯定感が低く、周囲の目を気にしすぎて行動に移せない傾向がある。また、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」に対しては、「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童が42%いることも踏まえると、自分に自信を持っていない児童が多いことが伺える。
- ・「家で学校からの課題を立てて勉強していますか」に対しては、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童が80.6%いる。これは本校の目指すべき児童像である「進んで学習する子ども」を体現しようとしているととらえることができる。また、普段の様子をみても、手帳を活用し、自分に必要な学習が何か考えながら勉強する姿勢も見られている。
- ・「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」という設問に対して、肯定的な回答をした児童が80.7%いる。各教科での言語活動が児童の実感を伴って充実している様子が伺える。

3. 指導改善の方策

- ・自己肯定感を高めるために、授業や活動の中で自分自身のよさ等を振り返ったり、仲間のよさを認め合ったりする場面を設定するなどして、自分自身のよさを受け入れられるように、自己受容を育てていく。
- ・挑戦力を高めるために、失敗しても助け合うなど仲間と協力しながら、さまざまなことに挑戦させていく。特に、これから行われるオールイングリッシュで過ごすグローバルキャンプに不安を感じている児童が多いが、挑戦する意欲を育てる絶好の機会となる。このような経験を積み重ね、挑戦力を高めていく。

【中学校 国語】

分類		区分	本校	仙台市	全国
		全体	82	71	69.3
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	85.9	73.6	72.6
		(2) 情報の扱い方に関する事項	60.9	45.9	46.5
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	76.6	72.4	70.3
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	79.2	68.0	64.3
		B 書くこと	60.9	45.9	46.5
		C 読むこと	85.2	71.2	68.3
評価の観点		知識・技能	80.6	70.4	69.3
		思考・判断・表現	78.1	65.4	62.7
		主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式		選択式	83.6	76.2	73.9
		短答式	84.1	71.8	70.7
		記述式	74.0	59.6	57.7

1. 概要

本校の正答率は82%、全国は69.3%*であり、良好な結果だった。問題数14問のうち、11問以上(8割程度以上)正解した生徒が71.9%(全国47.2%)であり、設問別の正答率を比較しても、一問を除き、全国平均を上回る結果となった。(全国平均を下回った問題の正答率は全国34.4%、本校39.5%である。)

2. 設問分析(特徴的な問題について)

【正答率が低かった問題】

1 三 スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのか、そのように話す意図を書く

出題の趣旨：自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す

※平均正答率 全国：52.3% 本校：70.3%

工夫して話す部分とその意図を結び付けて書けない生徒が多い傾向にある。作文指導など、生徒が提出したものに添削をして返すことは多いが、「なぜ添削されたのか」ということを日ごろから考えていない生徒及びその振り返りの意識が低いのではないかと考えられる。

2 三 農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える。

出題の趣旨：自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く

※平均正答率 全国46.5% 本校60.9%

記述問題だが、無解答率は全国8.8%、本校1.6%であり、記述問題でも解答を書こうとした生徒は多いことが読み取れる。一方で、解答率は高いものの、完答率は低いとも言える。正答条件が三つあるうち、二つの条件は満たしているが、「引用する部分をかぎかっこでくる」条件を満たしていない生徒は34.4%(本校)いることから、書くことには慣れていても、「引用をして書く」ということには慣れておらず、うまく書けなかったということが考えられる。同様の誤答は全国で40.4%見られるため、全国的にも同様の傾向があると考えられる。

【全国平均を下回った問題】

4 一 行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選ぶ。

出題の趣旨：行書の特徴を理解する。

※平均正答率 全国34.4% 本校39.5%

今回の設問の中で最も正答率の低かった問題である。全国平均の正答率も39.5パーセントと低い。しかし、今回、本校はその正答率を下回ってしまった。本校では書道の授業が週に一時間カリキュラムとして組み込まれている。その中で、このような結果が生じた要因の一つに、書道に親しむ機会が豊富にある一方で、生徒達が字を書くことや字の上達に関心を置き、知識事項を覚える意識が希薄だという本校の現状があると推察する。普段の授業から、分からない単語や語彙は自分から積極的に調べていくなどの主体性を身につけさせたい。

3. 指導改善の方策

国語・言語技術の授業において、「書くこと」の指導量は全国に比較しても重点的に行っていると考えられる。そのため、昨年度同様、「書くこと」に対する抵抗は少ないと考えられる。しかし、例えば添削指導などでは、添削されたとおりに修正することはできるが、その意図をくみ取り、次回以降に同様の添削をされないよう、意識させた指導を行うことが必要である。紙面上のやりとりだけでなく、声かけの中で「なぜ添削されたのか」を考えさせる指導や、「引用する」ことに関しても、様々な形式の文章を書く活動の中での指導を、今後重視していく必要がある。言語技術の「技術」の教授だけでなく、その技術を活かして書く「演習」まで見据えて指導できることが理想である。

また、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の分野においては、国語科と書道科が連携して指導にあたる重要性を再認識させられた。

最後に、昨年度から引き続き、同様の内容にはなるが、国語の力が問われるのは「国語の授業」だけではないことを、多くの先生方にも理解していただき、他教科も含めて学校全体で生徒の力を付けていくことが、国語・言語技術科の役割としても必要である。

【中学校 数学】

分類	区分	本校	仙台市	全国
全 体		69	53	52.0
学習指導要領の領域	A 数と式	84.1	57.0	58.0
	B 図形	52.1	48.6	44.1
	C 関数	65.1	46.3	44.3
	D データの活用	65.6	59.6	57.4
評価の観点	知識・技能	76.2	61.6	60.4
	思考・判断・表現	56.6	38.8	36.8
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式	選択式	61.3	56.7	53.0
	短答式	88.1	65.4	66.2
	記述式	56.6	38.8	36.8

1. 概要

本校の正答率は69%、全国は52%であり、全国平均を上回った。学習指導要領の4領域の「A 数と式」、「B 図形」、「C 関数」、「D データの活用」の全ての領域で全国平均を8%以上上回る結果となった。特に「A 数と式」においては26%上回る結果であった。

問題14問を13問以上正解した生徒が10.9%(全国6.6%)、11問以上正解した生徒は42.2%(全国22.2%)と、75%以上正解した生徒については全国と大きく差をつけた。しかし、10問正解を境目にして分布が2つに分かれており、下位層の底上げが必要である。(平均正答率 T1 コース 79.6%、T2A グレード 52.1%、B グレード 74.5%) また、問題3以外の問題での正答率は全国平均を上回っている。

2. 設問分析(特徴的な問題について)

- ③ある予想についていつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ問題の正答率が45.3%で全国平均の45.5%を下回った。ある予想が成り立たないことを示すには1つ反例があることを示せばよいということ半数以上の生徒が理解できていないということである。反例は中学2年生の三角形と四角形の単元で命題の真偽について学ぶ際に出てくる概念であるが定着していない。命題が真であることを示すにはすべての場合について正しく、偽であることを示すには反例を1つ示せばよいということについての理解が不十分であるために問題の文面を読みとることができずに誤答を選択してしまったと考えられる。

7(2)箱ひげ図が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりについて考察する問題については Type1 コースが 61.9%、Type2 コースは 40%で Type2 コースが特にできていない。データの個数が 20 回と書かれているにも関わらず、データの個数が少ないと読みとる間違いが生じている。これは問題文を読みとれずに問題を答えているか、箱ひげ図の見方ができていない、すなわち中央値がデータ全体の過半数であるということを読みとれていないかのいずれかであると考えられる。特に下位層ほど読み取れていない傾向があった。

9(2)ある角度の大きさが常に 60° になることを証明する問題は 23.4%で全国平均の 13.3%よりは高い水準ではあるものの Type2 コースでは 14.0%、Type1 コースは 47.4% であり、特に Type2 コースでは基本的な証明の書き方が身につけていないという結果となった。

142 を素因数分解する問題では 92.2%の正答率で全国平均の 52.9%と大きく差をつけた。素因数分解は中学 1 年生の学習内容であるが、本校では先取りとして平方根を中学 2 年生で学習するにあたり、素因数分解を復習しているため、高水準の正答率に結び付いたと考えられる。

6(2)差が 4 である 2 つの偶数の和が、4 の倍数であることの説明をすることを記述する問題では正答率が 84.4%であった。4 の倍数になることについて式を用いて説明することができている。全国平均の 49.5%と比べ高い正答率であることから、数の性質を記述することについて本校の生徒は苦手意識が少ないといえる。

3. 指導改善の方策

7(2)から箱ひげ図についての基本的な知識が定着していないことが分かる。20 回のデータを 5 回、5 回、5 回、5 回に分ける考え方が定着していないことが原因であると考えられる。授業の際に四分位数について印象に残るような手立てが必要である。大学入試でも頻出の内容であるので、中学 2 年生の段階である程度の読み取りができる程度には定着させていきたい。

3から図形の性質について予想した事柄が正しくないことを示すときに反例を 1 つ示せばよいということがあまり理解できていない。反例は図形や数の性質で正しくないことをいうために様々な場面で用いられることを意識させて指導していく。

9(2)から合同な図形の証明をしたあと、その図形を活用して図形の性質を説明を完結させることができていない。合同な図形の活用をする力を深めていく必要がある。授業の中で、ある図形が合同であることを証明して満足するのではなく、それを活用した発展的な問題を扱っていきたい。

これらの問題から設問の文章を読み取る力や、図形の性質を文章で説明する力の不足が散見された。こういった力をつけるために普段の授業から単発で答えられる問題ばかりではなく、文章を読み取る問題に取り組んだり、筋道を立てて自分の考えを説明する活動を授業の中に取り入れていく必要がある。

【中学校 理科】

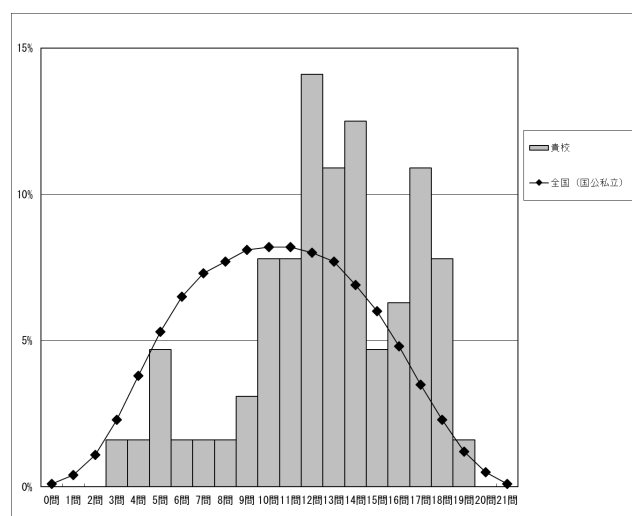
分類	区分	本校	仙台市	全国
	全体	61	53	49.7
学習指導要領の領域	「エネルギー」を柱とする領域	53.4	44.9	42.1
	「粒子」を柱とする領域	57.8	54.2	51.2
	「生命」を柱とする領域	77.5	61.8	58.4
	「地球」を柱とする領域	51.6	47.7	44.6
評価の観点	知識・技能	55.6	49.8	46.4
	思考・判断・表現	63.1	54.5	51.3
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式	選択式	58.3	53.2	49.9
	短答式	34.4	24.4	24.9
	記述式	72.5	57.7	54.0

1. 概要

本校の正答率は61%、全国は49.7%結果だった。

いずれの問題でも解答していない生徒が少ないことが分かる。さらに、学習指導要領の内容別正答率、問題形式別正答率で全国平均を上回っている。

今回、特によかった点としてあげるとすると、問題形式の正答率では、記述式で全国平均を大きく上回っていることだ。本校の生徒は、問題から考えられたことを記述することに対して、苦手意識が少ないことが考えられる。日頃の記述へのはたらきかけや、表現する機会を設けて指導している各教科担当の先生方の指導の賜物であると考ええる。



2. 設問分析(特徴的な問題について)

2(2) 気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する

7(2) 吸湿発熱繊維に水蒸気を多く含む空気を通した一つの実験だけで行った考察について、課題に正対しているかどうかを検討し、必要な実験を指摘する

この2つの問題は、全国平均の正答率を下回っていた。問題を見てみないと何とも言えないのだが、考えられることを以下に3点あげる。

- ①グラフの読み取りができていない。(温度と湿度の変化)
- ②地学分野の知識が不足していて、気温や湿度の上下で、前線が通過した地点の様子を理解することができない。
- ③問題の状況から、問われている意図を汲み取ることができない。答えが決まっているものは自信を持って答えることができるが、自由度のある解答に自信がもてない。

3. 指導改善の方策

今回の問題については、比較的良好にできていたが、2.設問分析にあげたように課題は多い。それぞれの課題を見たときに、教員が生徒に「教える」場面だけではなく、生徒が一人で課題に対して、どの

ように解決する方法があるか、分かったことを伝える方法についてどのような方法があるか、悩む時間を設けることが必要だと感じる。理科の授業では、知識を法則などから見いだして理解し、活用できるようになることや、実験での体験や技能を学習することを大切にしている。今後は、実験や課題を通して、うまくいかないという経験から、生徒（たち）がどうすべきか試行錯誤できるような場を授業で設定していきたい。

【中学校 生徒質問紙調査】

1. 概要

全国と本校の結果を比べたとき、全国平均に比べて良好と判断できる項目が多くみられた。一方で、課題ともとらえられるような結果になった項目もみられた。以下に上記の特徴が顕著に見られたものを抽出し、考察した。

2. 設問分析(特徴的な設問について) 上段：本校 (%) 下段：全国 (%)

○ゲームや携帯電話の使用について

(5) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか

4時間以上	3～4時間	2～3時間	1～2時間	1時間未満	全くしない
4.7	9.4	15.6	23.4	21.9	25.0
16.1	13.4	20.4	21.1	16.9	12.1

(6) 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）

4時間以上	3～4時間	2～3時間	1～2時間	30分～1時間	30分未満	携帯電話未所持
6.3	9.4	18.8	17.2	23.4	17.2	7.8
15.4	13.8	22.5	23.9	12.0	7.0	5.2

テレビゲームや動画視聴などの時間が全国よりも少ないことがわかり、各家庭でのルールを遵守することや自己管理することが比較的できていることがうかがえる。

○周囲とのかかわりについて

(12) 人が困っているときは、進んで助けていますか

当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
45.3	37.5	14.1	3.1
40.4	47.8	10.1	1.6

(29) 今住んでいる地域の行事に参加していますか

当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
7.8	26.6	17.2	48.4
14.1	25.4	26.8	33.6

私立学校という特性もあり、地域との接触が非常に少ない。周囲とのかかわりに比較的消極的な傾向にある。

○学習について

(19) 家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか(複数選択)

先生に聞く	友達に聞く	家族に聞く	左記以外の人に聞く	自分で調べる	そのままにしている	わからないことはない
45.3	60.9	29.7	14.1	53.1	0.0	0.0
31.5	66.6	46.0	15.4	74.2	10.8	1.5

わからないことをそのままにしている生徒が見られず、先生や友達など、周囲に聞いて解決する生徒が多い。一方で、自らの力で解決しようとする生徒が少ないことが課題である。

(21) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

3時間以上	2~3時間	1~2時間	30分~1時間	30分未満	全くしない
4.7	10.9	40.6	28.1	9.4	6.3
10.0	25.3	34.3	17.0	8.5	4.9

学校以外で2時間以上学習時間を確保している生徒が少ない、さらには、全くしない生徒が多いことが課題である。本校では時数や科目数が多いこと、部活動の活動時間も影響していると考えられる。

○ICT機器の使用について

(32) 1, 2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使いましたか

ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満
3.1	3.1	48.4	32.8	10.9
22.4	28.9	29.4	14.0	5.2

(33) 学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか(インターネット検索など)

ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満
4.7	3.1	25.0	50.0	17.2
13.0	24.8	34.0	20.2	7.9

全国と比較したとき、ICT機器の使用頻度が極めて少ない。原因として9年生は個人の端末ではなく、ステージで機器を共有していることもあり、教員側が授業内でICT機器を確保することが難しい側面がある。

○思考力や表現力を養う活動について

(38) 1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

発表していた	どちらかといえば発表していた	どちらかといえば発表していなかった	発表していなかった	考えを発表する機会はなかった
43.8	43.8	10.9	0.0	1.6
22.7	40.8	23.7	10.3	2.4

(40) 1, 2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか

当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
32.8	46.9	18.8	1.6
22.0	45.2	26.6	6.0

(44) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
45.3	43.8	9.4	1.6
25.8	49.1	20.2	4.6

(46) あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか

当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
35.9	56.3	4.7	3.1
28.9	47.6	18.2	5.2

本校では言語技術の授業を取り入れていることもあり、自らの考えをまとめて、発表する機会が多いため、他の授業や学級活動に反映されていると推測できる。

3. 指導改善の方策

○ゲームや携帯電話の使用について

今後も各家庭での管理やルール等の遵守をお願いしたい。

○周囲とのかかわりについて

学年やステージを越えた交流を増やし、聴覚支援学校などの外部との交流を今後も継続したい。

○学習について

今後も協働的に課題解決を行う活動や質問機会を設けるなどして、わからないことをそのままにしないような姿勢を大事に支えていきたい。家庭学習時間の短さについては、宿題や課題だけが家庭学習にとどまる生徒もいるため、自らに必要な学習を行うことの重要性を理解させていく。また、各教科で宿題や課題が少ないと感じている生徒もみられるために課題量自体を見直し、検討していく。

○ICT機器の使用について

一人一台の使用ができるように学校の体制を整えていく。

○思考力や表現力を養う活動について

今後も課題解決につながる授業や学級活動を継続して行っていく。